

1 水産資源の持続的な利用
(2) 漁場環境変化への対応（藻場の保全・回復対策）

《取組のポイント》

- 1 磯焼けの拡大防止/磯焼け域における藻場の回復
- ・磯焼けの実態を調査するとともに、漁業者による植食性魚類等の駆除や海藻の胞子供給などの取組を支援し、磯焼けの拡大防止や藻場の回復に努める。
- 2 ブルーカーボンに関する取組の推進
- ・魚介類の産卵・生育の場である藻場の保全・回復は、ブルーカーボンの創出にもつながることから、漁業者や民間企業等の関係者が連携した取組を推進する。

【背景】 磯焼けの拡大とブルーカーボンの取組

- ・海水温の上昇により活発化した植食性魚類等の食害などにより、磯焼けが拡大している。
（外房海域では鴨川市～勝浦市地先で兆候あり、内房海域では消失範囲が北側に拡大）
- ・藻場は二酸化炭素の吸収源としても期待されているため、漁業者と企業が連携して、ブルーカーボンの創出を目的に藻場を造成する取組などが始まっている。

〈取組の内容〉

《これまでの取組》

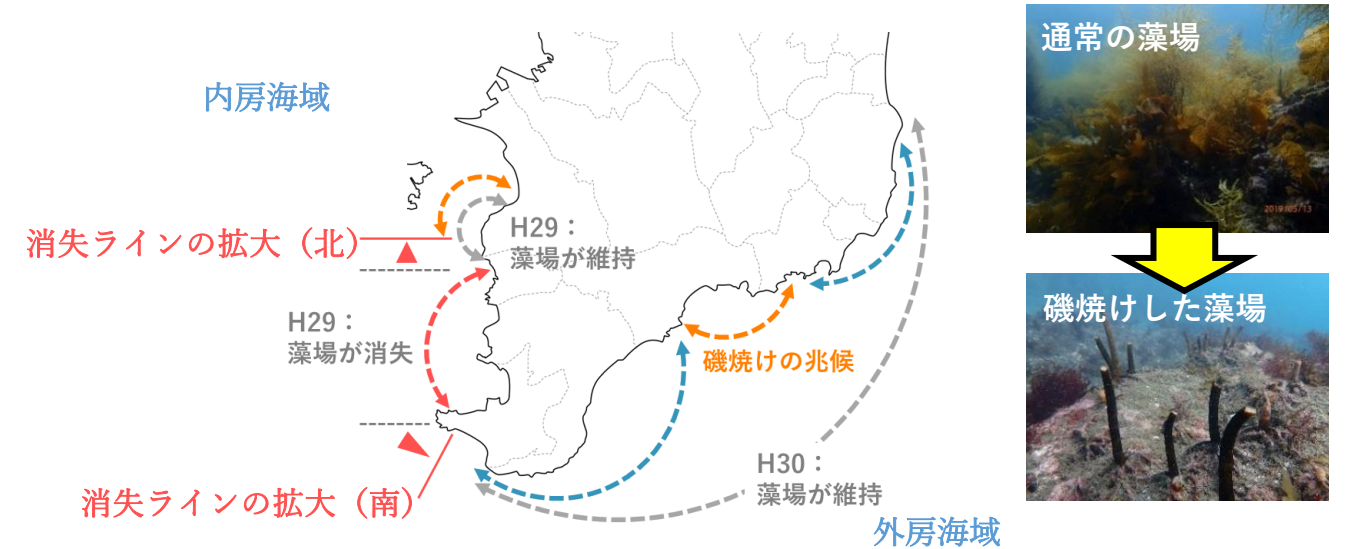
- 1 磯焼けの拡大防止/磯焼け域における藻場の回復
- (1) 藻場消失実態調査・対策指導（平成29年度～）
- 地区ごとに海藻及び植食性魚類等の分布状況と藻場衰退の原因を調べ、漁業者に各地区の状況に応じた藻場回復の取組を指導している。
- (2) 漁業者による藻場の保全・回復対策への支援（令和3年度～）
- 内房7地区・外房18地区
- 漁業者による植食性魚類等の駆除や海藻の胞子供給の取組を支援している。
- (3) 磯焼け対策会議（令和3年度～）
- 関係者が連携して効率的かつ効果的な対策を講じるため、漁業関係団体等を構成員とする「磯焼け対策会議」を開催し、藻場の実態把握や回復手法等について協議している。
- 2 ブルーカーボンに関する取組の推進
- (1) ブルーカーボン創出を目的とした藻場造成等の取組への支援（令和2年度～）
- 企業と連携したワカメ等の2層式海藻養殖試験（岩井地区）やコアママモ群落の管理を通じたアサリ稚貝の供給の取組（木更津地区）を支援している。
- (2) 千葉県ブルーカーボン推進協議会（令和6年度～）
- 企業と連携したブルーカーボンの取組を推進するため、漁業団体や経済団体等を構成員とする「千葉県ブルーカーボン推進協議会」を活用して、先進事例を紹介する研修会を開催するなどして、取組の拡大を図っている。

《今後の取組》

- ・藻場のモニタリングと漁業者の取組への支援を継続する。
- ・植食性魚類の活用を促進するとともに、胞子の供給源となる核藻場造成等に取り組む。
- ・ブルーカーボンの取組を拡大させるため、協議会を活用して民間企業など多様な関係者の参画・連携を進める。

〈事業イメージ〉

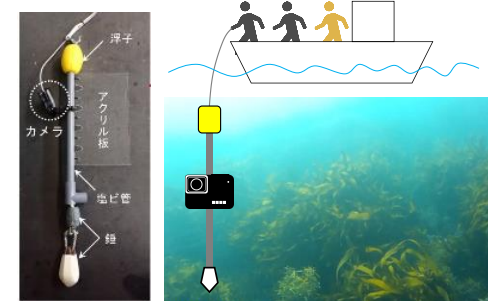
【背景】 磯焼けの状況



【主な取組】 藻場の保全・回復対策

藻場のモニタリング

→磯焼けの兆候を早期に察知



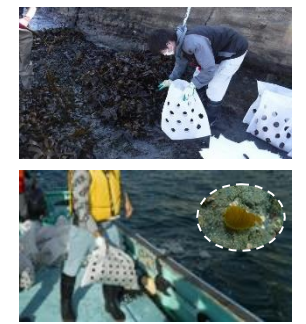
刺網等による植食性魚類駆除

（ブダイ、アイゴ、イスズミ等）
→食害を防止



海藻の胞子供給

（スポアバックの投入）
→藻場の回復を図る



2 水産業の成長産業化

(1) 東京湾漁業の振興

《取組のポイント》 1 アサリ漁業における稚貝の保護対策 ・アサリ稚貝の食害を防ぐため、防除効果が確認されている囲い網の設置を支援し、普及を図る。 2 ノリ養殖における食害対策 ・ノリ不作原因の一つである食害を防ぐため、防除ネットの導入支援や新たな防除技術を開発するとともに、クロダイの効率的な漁獲手法を検討する。	【背景】アサリ漁業及びノリ養殖の低迷原因 ・アサリ漁業は、近年、ウミグモの寄生は落ち着いているが、秋以降に食害などにより稚貝が減耗し、漁獲量が低迷している。 ・ノリ養殖業は、近年、高水温化により活発化したクロダイの食害などにより不作となっている。
--	--

《取組の内容》	《事業イメージ》
《これまでの取組》 1 アサリ漁業における稚貝の保護対策 (1) 囲い網の設置への支援（令和元年度～） アサリ稚貝の食害防除効果が確認された囲い網の普及を図るため、漁協による囲い網の設置を支援している。（木更津や富津地区では漁獲量が増加） (2) 囲い網の効果を高める設置手法の検討（令和4年度～） 食害防除効果を高めるために効果的な設置手法（材質や固定方法など）を検討している。 2 ノリ養殖における食害対策 (1) 省力型防除ネットの開発・導入支援（令和2年度～） 食害防除ネットは、設置・撤去等の作業が負担となっているため、令和2年度に管理が容易な省力型防除ネットを開発し、その導入を支援している。現在、防除ネットの隙間からのクロダイの侵入を防ぐため、光などを活用した新たな食害防除技術の開発を進めている。 (2) クロダイの効率的な漁獲手法の検討（令和3年度～） クロダイを効率的に漁獲するため、刺し網による効率的な漁獲方法を検討するとともに、超音波発信機を装着して蛸集する時期や場所など行動を把握している。 3 資源管理や新たな増養殖の取組への支援 (1) カキ養殖の取組への支援 漁協が取り組む養殖の技術支援を行うとともに、養殖資材の購入を支援している。 (2) 資源管理や増殖の取組への支援 ホンビノスガイの資源管理やトラフグやナマコなどの種苗生産試験を実施している。 《今後の取組》 ・アサリ稚貝の食害防除効果を高めるため、囲い網の効果的な設置手法の開発を進める。 ・ノリの省力型防除ネットの効果を高めるため、新たな食害防除技術を開発するとともに、引き続き、クロダイの効率的な漁獲手法を検討する。 ・資源管理や新たな増養殖の取組を引き続き支援する。	1 アサリ漁業における稚貝の保護対策 県 補助金 効果調査・技術指導 漁協 普及推進 (PR 資料作成) 研究・開発 ・増産効果を高める効果的な設置手法の検討 囲い網の設置作業 水揚げされたアサリ 2 ノリ養殖における食害対策 県 補助金 ・省力型防除ネットの導入支援 研究・開発 ・新たな防除技術の開発 ・効果的・効率的な漁獲手法の検討 クロダイによる食害 従来型の防除ネット (作業面で大きな負担) 省力型防除ネットの開発 (作業時間が7割削減) ノリ網 省力型防除ネット 超音波を使ったクロダイの行動把握